

# 主体的・対話的で深い学びの実現を目指す授業改善 ～学力調査における設問の要素を取り入れた算数科の授業展開～

令和4年度コアティーチャーネットワークプロジェクト部会小学校算数部会

## <設定理由>

学力調査の算数の問題で説明を求める問題に課題が見られる。日頃の授業の中でどのような授業を展開していけば課題が解決できるのかを考え、本授業を設定した。

## <授業の趣旨>

本授業は、算数科において「学力調査における設問の要素を取り入れた授業改善」として、「3つのJ」と「目標を達成した表現の明確な想定」の視点を取り入れたものである。また、学習の振り返りの場면을重視し、振り返りにつながる思考の見える化を図る工夫も取り入れていく。

## <今回の実践>

### ① 学習課題の工夫

日々の授業では、多くの教師は、教科書の問題を参考に学習課題を設定している。また、学習の多くは、易→難の順に進められているのではないかと考えた。課題解決後に練習問題取り組ませると、解説や話し合いが必要になってしまうことも少なくない。そこで、今回の実践では、本時の最後に設定されているような練習問題を参考に学習課題を作成することにした。また、学習課題は、児童が興味をもつように提示の仕方や内容を工夫して、ゴールを見通した学習を進められるようにしていく。

### ② 説明する場の設定（「3つJ」の「条件」を取り上げた練習問題の設定）

1単位時間において説明する場は、自力解決で自分の考えを表現するとき、本時の学習のまとめをするとき、練習問題と三つの場面が想定される。昨年度の実践では、自力解決で自分の考えを表現するときを中心に説明する場を設定した授業を行った。そこで、本年度は練習問題の場面での説明する場を設定した。

具体的には、本時で学習した「底辺の長さが等しく、高さが同じであれば形が違う三角形の面積は同じになる」ことの確認を確認するために複数の三角形や平行四辺形の中から同じ大きさの面積の図形を見つけ、それを説明する練習問題を出す。

その際、「3つのJ」の「字数」「条件」「時間」の中で今回は「条件」を取り上げる。上記の練習問題で条件として「高さ」「底辺」を使って説明するようにしている。また、本単元では底辺と高さを正しく認識することがポイントとなるので、先ほどの2つの条件に加え、具体的な長さを入れることも条件にしている。

### ③ 振り返りの場面の工夫

振り返りの場を授業終末に設定することが多いが、感想で終わったり、何を書くか迷う児童の様子が見られたりしている。そこで、1時間を通して自分の気づきを場面場面で自己チェックとしてメモし、見える形にしたものを基に終末段階で自分の学びについて振り返るようにしていく。

最終的には、指示がなくても自分で気付いた言葉を書けるようになることを理想とするが、学習に見通しをもつ段階、自力解決の段階、振り返りの段階で書く時間を設け、書き慣れできるようにしていく。

【授業改善モデル（1単位時間の学習課程案）】

	主な活動	実践のポイント
つかむ	学習課題をつかむ。	① ゴールを見通した学習課題を設定する。
見通す	学習問題をたてる。 学習の見通しをもつ。 (チェック 1)	③ 自力解決前に課題へ対する自信について自己チェックを行わせる。
調べる	自力解決に取り組む。	③ ペア・グループでの対話活動時に聞きたいことや教えたいことをメモしたり、交流での気づきをメモしたりさせる。
深める	ペアやグループで対話し加除・修正を行う。(チェック 2)	
まとめる	全体でポイントをまとめる。	
振り返る	練習問題に取り組む。 学習を振り返る。 (チェック 3)	② 「3つの J」を取り上げた練習問題を準備する。 ③ これまでの自己チェックを基に本時の振り返りを行わせる。

※ 数字は前ページ今回の実践内容の番号を表す。

【自己チェックについて】

	児童の側の視点	教師の側の視点
チェック 1 学習の見通しをもつ段階で実施	◎○△で問いに対する自信を表す。	児童の実態把握 →自信がない児童の個別指導に生かす。
チェック 2 自力解決の段階で実施	対話活動で友達に質問したいことや教えたいこと等をメモする。	児童の思考の把握 →思考（気づき、つまづき等の傾向を把握する。
チェック 3 振り返りの段階で実施	これまでの学習内容や問題解決の手順について自己チェックを踏まえ、振り返る。	今日の学習で何をしたのか、何を学んだのか等の把握 → 次時の学習に生かす。